

	演題番号3
代表発表者氏名	山口明乙香
共同発表者	若林功（国際医療福祉大学）、八重田淳(筑波大学大学院)、前原和明（秋田大学）、野崎智仁（国際医療福祉大学）、縄岡好晴（明星大学）
発表タイトル	障害者の「働き続ける」を支えるための多機関連携のこれから
研究概要	<p>近年、国内で働く障害者数は過去最高を更新し続けており、就労後の継続的な支援の重要性が高まっている。本セミナーでは、就労定着支援事業所の利用動機として最も多い「就職後も相談できる人がいてほしい」（47.4％）をはじめ、働く当事者のサービスへの期待やニーズを共有する。具体的には、サービス終了後の継続相談や地域資源との接続、企業在籍型ジョブコーチ・職業生活相談員との情報共有、支援終了を見越した他機関への接続支援などが求められている現状を報告する。また、ピアサポートや居場所づくり、サービス期間延長といった今後の期待にも触れる。当事者は、就労定着支援終了後の「つながり」や「居場所」を重視しており、地域の就労支援機関、基幹相談支援センター、地域活動支援センター、民間サークル、生涯学習など多様な資源との関係構築が安定した生活に不可欠である。さらに、計画性・改善、意見交換・対話、勤務態度・周囲との協力といった当事者が日々心がけるポイントを支援内容に反映し、就労定着支援の期間内外で切れ目のない支援体制を整える必要性についても取り上げる。</p>
キーワード	就労定着支援 就労 職場定着 多機関連携
その他	<p>障害のある方にとって就労は、キャリアにおいても大きなテーマとなるものです。就職はゴールではなく、働くキャリアのスタートであり、「働きつづける」を実現するためには、周囲の障害による困難を理解し、当事者の力を発揮できる工夫について調整をしていくことが大切になります。特に就労定着支援においては、就労支援機関と企業、地域の福祉資源、医療機関等多岐にわたる連携が必要になります。障害のある方の「働き続ける」を支える多機関連携について関心のある方と集える機会となることを期待しています。</p>